

1 2) 元気に育ってます！乳用子牛のほ育所

十勝北部地区農業改良普及センター

1 . はじめに

上士幌町の酪農は、経営規模の拡大とともに生乳生産が順調に伸び、出荷乳量は年間7万トンを越えている。その一方で、高齢化や後継者不足により戸数が減少し、集落機能の低下が散見されている。また、規模の拡大で労働過重が進み、このことがさらなる規模拡大や多様な酪農経営存続の障害となり上士幌酪農の持続的発展を妨げている。

地域の農業者や関係機関は、その解決策として新たな酪農作業支援システム - ほ育育成部門の分業化 - の導入を検討し、平成14年3月、ほ育を専門に受託する農家1戸と委託酪農家6戸による「上士幌哺育組合」が誕生した。しかし、設立初年目の冬期間に子牛の死廃率が高まり、組合崩壊の危機に陥ったため、ほ育組合を支援する取り組みを平成15年から開始した。

2 . 活動の経過

具体的な推進項目は、次の2点とした。

- 1) 受託農家のほ育育成技術の安定化
- 2) 委託農家の経営向上とゆとり創出

これらの達成には、関係機関が共通の認識を持ちながら、継続的に支援することが必要と考えた。

当センターは関係機関と協議して、JA 上士幌町を中心とした支援チームを立ち上げた(図1)。

- 1) 受託農家のほ育育成技術の安定化

事故原因を解明し、改善策を提案するため、畜産試験場感染予防科および十勝 NOSAI 上士幌家畜診療所とともに、受託子牛の抗体検査や細菌検査を行った。とくに畜産試験場は、これまでの研究成果を生かしつつ、検査結果に基づいて現状のワクチンプログラムや初乳の給与方法を解析し、改善案を示した。支援チームは、これをもとに改善方法を協議し、ほ育組合へ提案した。

ほ乳子牛の事故低減は、受託農家ばかりではなく委託農家における管理の改善が欠かせない。そこで、研修会を開催して、子牛のほ乳方法や母牛の乾乳期の飼養管理について改善を試みた。

- 2) 委託農家の経営向上とゆとり創出

分業化による改善目標を明確にし、達成度を確認しながら推進した。委託農家に対しては、経営分析と診断を行い、分業化の経営内での評価を提示した。また、労働時間の削減によるゆとり創出や労働の効率化について調査を行い、その効果も明らかにした。

委託ほ育した子牛は、6ヶ月齢で公共牧場に再委託されるため、授精月齢や体重を点検し、平成14年以前の自家ほ育牛と比較・検討した。

3 . 活動の成果と実績

- 1) 受託農家のほ育育成技術の安定化

受託農家の管理技術向上やワクチンプログラムの変更、委託農家の初乳給与法(図2)や生後4日間の飼養管理が改善され、初年度10%以上あった死廃率は、2年目には1.3%、3年目には0.9%にまで減少した(図3)。

- 2) 委託農家の経営向上とゆとり創出

委託農家では子牛のほ育育成に要する時間が減少し、経産牛頭数を平均12頭増頭することができた(表1)。またゆとりが生まれた結果、乳牛飼養管理全般の技術向上を目的としたほ育組合の女性部が誕生した。委託ほ育牛は、自家ほ育牛に比べて、授精月齢が約2ヶ月短縮でき(図4)、ほ育・育成分業のメリットが確認できた。

以上の実績から、上士幌哺育組合の運営が軌道に乗ったと判断した。

4 . 今後の方向

子牛の疾病対策に終わりはなく、引き続き地域 NOSAI や畜産試験場と連携して、積極的にステップアップする必要がある。分業化についての地域への波及は見られていないが、ほ乳牛を群飼いするノウハウは地域のモデルとなっている。また、離農者を受託農家で雇用するなど、地域における雇用の場を創出する組合へと成長している。

今後は、新たな分業システムの導入について、検討を進める必要が残されている。

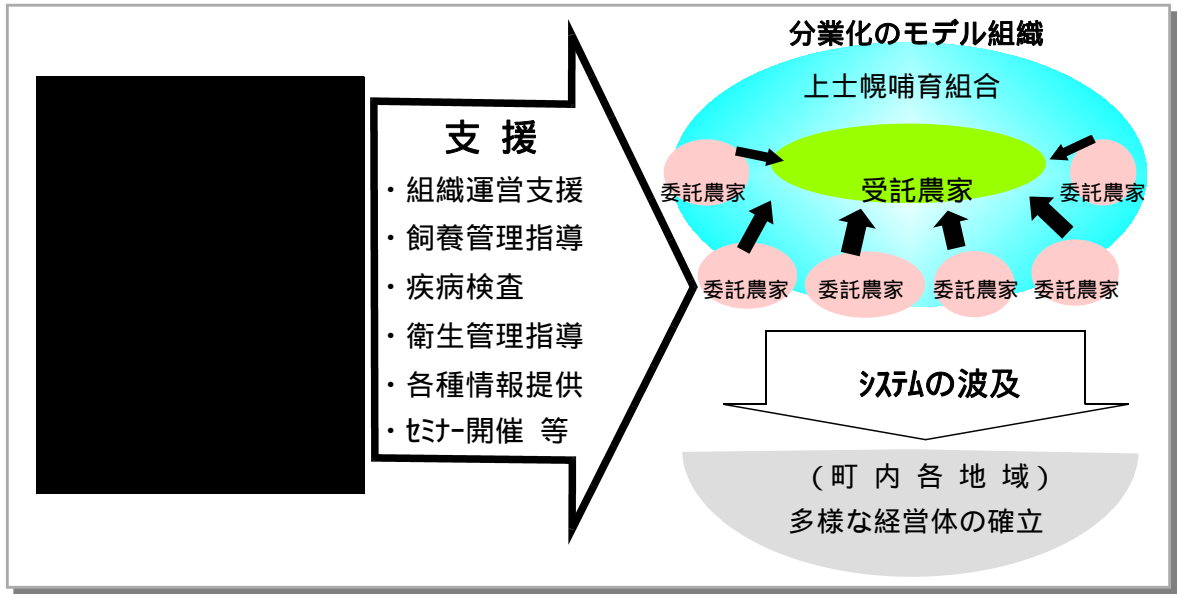


図1 支援チームの構成と取り組み（フロー図）

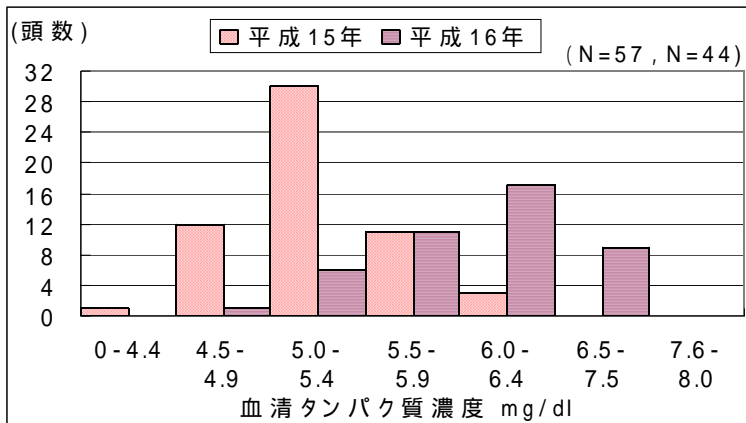


図2 初乳給与法の変更による導入時の血清タンパク質濃度の改善効果（移行抗体の吸収量が増加）

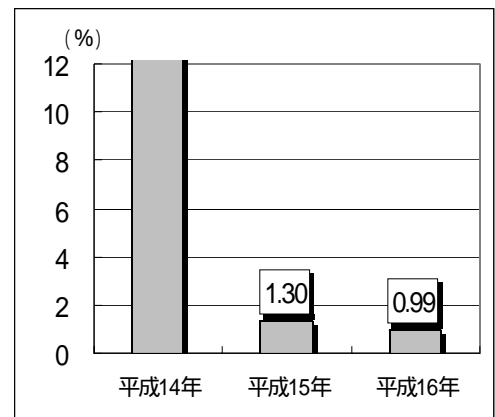


図3 子牛死廃率の推移

表1 委託農家の労働時間と飼養頭数の変化

農家	年次	労働者数	年間総労働時間	日平均労働時間/人	経産牛頭数(実績)	経産牛頭数(計画)	哺育育成牛頭数	経産牛1頭当たり労働時間	育成牛1頭当たり労働時間
C	H14	4	11,025	7.6	108	130	98	83.6	20.4
	H15	3	8,251	7.5	132		108	53.3	11.2
B	H14	2	5,513	7.6	97	150	70	41.9	20.7
	H15	2	5,494	7.5	113		80	42.4	8.8
E	H14	2.5	6,336	5.8	76	120	66	66.3	19.7
	H15	2.5	6,190	5.7	76		66	71.7	11.3
D	H14	4	12,355	8.5	112	140	99	95.4	16.9
	H15	4	11,702	8.0	120		100	87.5	12.1
A	H14	4	13,636	9.3	195	195	164	56.8	15.7
	H15	4	13,195	9.0	215		164	50.3	14.6
F	H14	3	9,793	8.9	85	120	51	87.2	46.8
	H15	2	5,997	8.2	90		55	55.8	17.8
平均・合計	H14	3.3	58,659	7.9	112.2		91.3	71.9	23.3
	H15	2.9	50,829	7.7	124.3	142.5	95.5	60.2	12.6

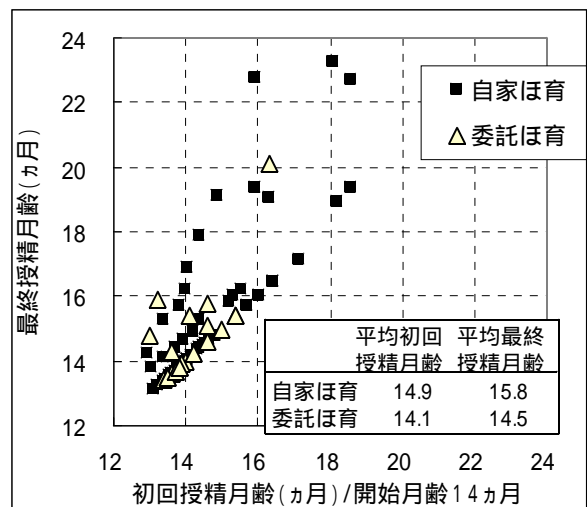


図4 哺育組合委託前後での授精月齢の変化